

鎌倉市教科用図書採択検討委員会（第2回）会議録

日 時 平成30年6月22日（金） 15：00 開会
16：45 閉会

場 所 鎌倉市役所 402 会議室

出席者 露木委員 杉並委員 三好委員 磯部委員 星委員
中村委員 河合委員 山本委員 横山委員

欠席者 伊藤委員

事務局 石川教育指導課長 太田指導主事 竹澤指導主事
池邊指導主事 上指導主事

次 第

- 1 開 会
- 2 議 事

(1)説明、協議等

- ア 調査員会の説明及び検討、協議等
- イ 今後の日程

会議内容

- 開 会
- 会 議

委員長 鎌倉市教科用図書採択検討委員会の第2回委員会を開催する。本日の議事録署名委員を杉並委員と横山委員にお願いする。

それでは、本日の流れについて事務局から説明をお願いします。

事務局 では、説明させていただく。まず、最初に資料の確認をさせていただき、調査資料の報告を担当指導主事が発行者ごとに行う。その後、調査員の報告についての質疑をいただく。質疑の後、暫時調査研究の時間をとり、協議に入らせていただく。以上。

委員長 今事務局から説明があったが、質問はあるか。

(質問なし)

委員長 それでは、本日の資料の確認を事務局お願いします。

事務局 本日用意した資料は、「鎌倉市教科用図書採択検討委員会調査員会調査資料」、「学校調査票のまとめ」、「神奈川県教育委員会中学校用教科用図書調査研究の結果」であり、以上の資料は、一人ずつ机の上に配付している。

また、「教科書見本本」、「教科書展示会アンケート」、「小・中学校学習指導要領」、「中学校学習指導要領解説（総則編、特別の教科 道徳編）」、「平成30年度使用小学校教科書編修趣意書」については、テーブルに用意してある。以上が本日の調査研究の資料となる。

なお、参考として、平成26年発行「かまくらっ子」の実態調査、平成30年度「かまくら教育プラン」も用意した。

続いて、資料について簡単に説明する。

まず、「調査員会調査資料」は、調査員会の調査の報告である。のちほど担当の指導主事より説明させていただく。

学校調査票のまとめは5月15日から市内中学校9校に見本本を巡回展示し、調査用紙にある「共通な観点」、「教科・種目別の観点」、「本校生徒にふさわしいか」という3つの観点で各校において調査研究したものについてまとめたものである。

「神奈川県教育委員会中学校用教科用図書調査研究の結果」は、神奈川県教育委員会が神奈川県教科用図書選定審議会からの答申を受け作成した資料である。

なお、教科書展示会については、市中央図書館を会場に6月12日から6月18日までの7日間、一般市民を対象に教科書見本本、趣意書、採択の流れ、教科書目録、採択方針などを展示している。展示会にいらした方の意見についても資料としてご覧いただける。

他の資料については、前回ご説明したので、省略する。

委員長 ここまでで質問はあるか。

(質問確認なし)

委員長 それでは、事務局からの調査員会での内容説明の前に、本委員会で作成する報告書の総合評価について、第1回の検討委員会で確認した内容を改めて確認する。

評価については文章表記を基本とし、総合評価の文章内容について協議・検討し決めていくこととする。なお、協議の中で、鎌倉の生徒にふさわしいかどうかという観点での発言も願います。以上、確認する。

報告書の総合評価について質問・意見はあるか。

委員 調査員の作成した資料を見せてもらった。短期間にもかかわらず、各発行者の特徴を的確に指摘していると思う。各員が調査をし、まとめたこの資料を重視し、併せて県や学校からの調査内容も参考にして、鎌倉の生徒たちにふさわしい教科書を選んでいければよいと考える。したがって、この資料の文言を中心に意見交換していく方向で文章表記を中心に内容を協議していく方法はいかがか。

委員長 今、委員から協議の進行について意見が出たが、他に質問・意見はありますか。
今出た意見でよろしいか。

(質問確認なし)

委員長 では引き続き調査報告についてお願いします。

事務局 では、調査資料について説明する。5月8日開催の採択検討委員会の指示を受け調査員に「県の採択方針にある調査研究の観点に基づき、特徴的なことを記述する」という内容を確認した。

特に、まとめる上での観点として、道徳的な課題を生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」につながる内容構成になっているか、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える工夫がされているか、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等は適切に取り上げられているか、という点を大切にしたい。

また、調査員が個人の立場でなく調査員会として調査資料を作成する、調査員全員がすべての教科書の調査・研究にあたり、全員の総意として資料を作成する、ということで報告書をまとめることとした。

調査員会は、5月16日、5月30日、6月13日の3回開催し、先生方のご協力でも調査研究資料を取りまとめることができた。

それでは調査資料については、担当指導主事から説明する。

委員長 では、担当指導主事、お願いします。

事務局 調査員の調査資料より、各社特徴的なものを4点ずつ読み上げて報告にかえさせていただく。不明な点などは、後に質問の時間があるので、その場でお願いします。

まず、東京書籍について、

○いじめ問題、生命尊重についての複数の教材をまとめて取り扱い、一つのテーマを多面的・多角的に考えられる。

○つぶやきコーナーなどの書き込み欄があり、自分の考えを適宜メモして、話し合い活動に活かせる。

○巻頭に話し合いの手引き、巻末にホワイトボードや「心情円」が付いており、発言が苦手な生徒も意見交換に参加しやすいよう工夫されている。

○図や写真、イラストが多く入っており、親しみやすく興味を持ちやすいものになっている。

次に、学校図書について、

○取り上げている内容項目の数に偏りがなく、4つの内容項目の教材がどの学期でも偏りなく学習できる。

- 学年の冒頭で「対話ゲーム」を取り入れ、意見交換のしやすい「学級作り」への工夫をしている。
- 教材のマーク、活動のマーク、大切な10のポイントのマークが目次についている。
- A B判サイズで、ゆったりとしたレイアウトで見やすくなっている。

次に、教育出版について、

- 3年間を通して「生命の尊さを考える」、「いじめや差別のない社会に」、「情報とよりよくつき合う」を重点テーマとしている。
- 重点化した内容をより深めるために「補充教材」を設け必要に応じて教材を入れ替えられる。
- 教材の冒頭に「導入」の問いが設けられており、学習のねらいを明確にすることができる。
- 図版や書き込みの枠は少なく、その分写真やイラストがふんだんに使われている。

次に、光村図書について

- 編集委員会作の独自教材が多く、生徒の学びに配慮し、感性に訴えた教材が多い。
- いじめ問題・情報モラルといった現代的な課題についてのコラムがあり、学びを深められる。
- 年間の学習が4つのシーズンに分けられており、学校生活の実態と、生徒の成長を考慮している。
- 中学校で学習する常用漢字については、固有名詞等を除き、全てにふりがなを付してある。

次に、日本文教出版について

- 「いじめ」についての教材が複数連続して取り扱われ、「いじめ」について多面的・多角的に考えることが出来る。
- 「プラットホーム」というコラムにより教材の内容をより多面的・多角的に考えることができる。
- 別冊「道徳ノート」は、教科書本文に対応するワークシート形式になっており、授業で活用できる。
- 表紙のイラストが中学生に親しみやすい。

次に、学研教育みらいについて

- 主題名が教材中に記載されておらず、特定の価値観を押し付けられることなく、自由に考えられる。
- 「スポーツ」「地球と地域」について、複数の教材を使用して、様々な視点から、多面的・多角的に考えられるようになっている。
- 本体の教材に加え、関連する資料やコラムがあり、発展的に学ぶことができる。

○大きな判型(A4判)を採用し、豊富な文字情報及び視覚的情報を利用している。

次に、廣済堂あかつきについて

○道徳教材として長く読み継がれてきた名作や感動教材を多く取り上げている。

○「生命尊重」「いじめ防止」に重点が置かれており、命に関する教材を多く取り上げている。

○別冊ノートでは、テーマについて教科書とは別の視点から、短い文章で考えることができる。

○本冊、別冊ともに AB 判を採用し、紙面にゆとりをもたせ、圧迫感のない構成が心がけられている。

次に、日本教科書について

○都道府県教委や文部科学省をはじめ、様々な出典の読み物資料を使用している。

○3年間を通してキャリア教育に関して取り扱っており、他教科や他領域とのつながりを考慮している。

○内容項目順に教材が配置され、カリキュラムマネジメントに活かすことのできる構成になっている。

○表紙を含め、写真を大きく使うことで視覚的に情報を与えるつくりとなっている。

以上

委員長 それではこの調査資料をもとに、調査研究の時間に入りたい。
20分ほど時間をとる。

委員長 それでは調査研究を終了し、協議に入る。
協議の進め方について諮る。発行者ごとの調査員の報告資料に基づき、まず、質疑をいただく。その後、ご意見をいただき、評価について協議する。

具体的には、調査資料の中で評価すべき点を確認する。総合評価の内容については、できるだけ多くの意見を各委員から出していただき、協議・検討する。調査報告書や県の調査研究、学校調査票のまとめなどを活用する。また、希望があれば途中で調査研究の時間を取る、という進め方でいかがか。

では、協議を始める。報告書に記載のある教科書会社の順で協議していく。まず、東京書籍から、質疑や意見はないか。

委員 調査資料の最初にいじめ、生命の尊重についてと複数の教材とあるが、東京書籍や他の会社でユニットという言い方をしているが、繰り返し学習する形はたくさんの意見を生みだし、意見が出やすいのではないか。

委員長 いじめ問題はどこの会社も取り上げられているが、東京書籍は、いじめ問題が最初に出ている。その部分も含めていかがか。

委員 心情円は使いやすいものとするか、また、ホワイトボード代わりに使える教材もついているが活用しやすさについて皆さんはどう考えるか。

委員長 他にあるか。

委員 先生方はこれを使ったとき展開はしやすいのか、課題設定はどうか、という視点で見たが、意見の移り変わりを見える化しているのでよいのではないか。ホワイトボードに関しては薄いと感じる。「考えてみよう」についてはもう少し工夫が必要かと感じる。

委員長 それ以外にはないか。

委員 心情円には二つデメリットを感じている。イエスかノーしかない、多面的、多角的な意見が出にくいのではないか。生徒が管理をできるかどうかは不安を感じる。

それとは別に、「学びを振り返ろう」の部分が少し気になる。ただの批判で生徒が終わってしまわないか。変容や、他の生徒の意見を聞いての気づきをもとにどう思ったかが大切だと考える。

委員長 振り返りシートについてはいかがか。

委員 ランク付けするというのがどうかと感じる。

委員長 他にはいかがか。

委員 内容では、タイトルが二つある。そのタイトルが押し付けのように感じてしまう。タイトルは一つでいいのではないか。

委員 私も同感である。価値が最初に出ている。学びの中でその価値に気づいていくべきである。最初に出してしまうと、その気づきが失われるのではないか。また、読み物としての文量が適切であるのか、気になる。

委員長 文量に関してはどの発行者も1時間の授業で終われるのかと感じる。

委員 1年生の職員からは、4ページを超えると記憶に残らず、振り返るのも大変になってくると聞いている。文量は少なめ、できれば見開きであるほうが、自分で気づけるのではないか。これだと学習が深まらないのではないかと不安を感じる。

委員長 良い面はないか。

委員 質問がある。共通教材はあるのか。

事務局 共通教材という形で示されてはいないが、例えば多くの出版社で採用されている教材に、銀色のシャープペンシルなどがある。杉原千畝については6者が取り上げている。東京書籍は小辻節三も取り上げている。

委員 共通教材が少なくなってきた。オリンピックについても各社取り上げる人物が違うなど、共通性のものが少ない。

委員 文量が多いが、メリハリの利いた題材や、漫画を取り上げるなど、いろいろな子どもの目を捉えやすいと感じる。

委員 「考えてみよう」の問いが、国語みたいなものが多い。つぶやきスペースに書き込めるのは良いと思う。また、小、中同じ教材を入れ、成長によっての学びを感じさせるというのは良いのではないか。

委員長 次に学校図書について、ご意見を願います。

委員 教材のマーク活動のマークが多すぎて見づらい気がする。

委員 同じことを思っていた。マークの絵が細かすぎるのでは。弱視や色覚に特性のある生徒にとって見づらい。

委員 全体的に内容項目の偏りが無いのがよいが、ページ数が多く、厚みがあるのが残念である。「学びに向かうために」は授業を進めやすくする工夫を感じる。保護者向けの部分がある。学期ごとに感想を書く欄があり、保護者に見てもらいたい意図はわかるが、よし悪しがあると思う。

委員 学びの記録は、まとまって書くことになり、振り返るときにはよいと感じる。

委員 中身について、他の会社では取り扱っていない、万引き、薬物などの題材を取り上げている。3年生で受験生の気持ちについて取り扱っているので、オリジナル性を感じた。

委員長 他はいかがか。

委員 「学びに向かうために」について、シンプルでよいと感じた。保護者へ向けての解説につい

て、意図は良いと思うが、疑問を感じてしまう。また、字が大きいのはよい面もあると思うが、その分教科書が厚くなり、生徒にとって扱いづらくないのかと感じる。

委員 教科書が重いのは気になる。

委員長 中学生にとっても重いのは困るだろう。

委員 個人の意見を書いたものが教科書にあるということは、学校に置いておくと誰でも見られてしまう。その点は議論したほうがよいのでは。

委員 自分の考えを書かせる欄があるので、「心の扉」は良いと感じる。

委員 同じように、「学びに向かうために」というポイントが示されているので、先生にとっても生徒にとっても見通しをもって考えることができる。また、見つめようという最後に自分に引き戻す発問があってよいと思う。AB判という大きさは中学校にとってはどう感じるか。

委員 ページはめくりやすいだろう。

委員 他の教科書よりは、読みやすく感じる。読むのが苦手な生徒も、読む気力がなくなるのではないか。

委員 書き込む部分については、積極的に保護者には見せないのではないかと感じる。

委員長 次に教育出版について、ご意見を願います。

委員 「学びの道しるべ」では、教材理解だけでなく、物事を自分に引きつけて考えられ、自分に聞くという部分では良いと思う。

委員 補充教材にかかわる部分で、1年生のロシアの捕虜のお話があったが、学校にはさまざまなルーツを持つ生徒がいるので、美化して書かれていることが国際理解という面から考えると気になる。3年では内容が極端な気がした。ドナーカードについてどんな意思をしめしますか、とあるが、15歳でそこまでやってしまうのは不適切な気がする。

委員 1年生では「いじりといじめ」など、身近な話題で考えるなど良い教材があると思う。「学びの道しるべ」での問いでは、自分事として捉え、多面的多角的に考えるのにはよいと感じた。

委員 1年生の教材で難民の話だが、難解に感じた。他にも難しい内容を取り上げているような気がした。

委員 今日的な課題になりそうな題材が多い。大人として取り組んでいかなければならない題材があるので生徒にとっても意識ができるのではないか。杉原千畝についても、教育委員会から出ている資料も含めて、スパイラル的に学ぶのに適していると感じる。鎌倉ゆかりの人でもあるので身近な題材としてよいと思う。

委員 極論な問いが多いのでは。自分ごとを通り越して押し付け的に感じてしまう。結論を求める進め方になるのではないか。

委員 一話で完結させるのではなく、その他の時間の中でとりあげたり、波及したりすることになるので、いろいろな部分に波及効果があると感じる。

委員長 大きさ、重さ的には手頃だと感じる。

事務局 共通教材はないが、定番教材として、「二通の手紙」、「卒業文集最後の二行」、「二人の弟子」、「一冊のノート」などがある。

委員長 次に光村図書について、ご意見を願います。

委員長 光村図書は、編集委員会が作成している独自教材が多いがいかがか。

委員 まなびのテーマが必ずあり、生徒たちが議論しやすいのではないか。幅広いところから教材を用意し、議論を活発化させる狙いを感じる。しかし、読み物教材が多いので、写真や絵などから考える教材がもう少しあればと感じる。

委員 感性に訴えた教材が多いという特徴を感じる。また、コラムの中に簡単な漫画が描いてあるなど、図で考えさせるといのは一つの方法か。特徴と感じる。また、伝記的な題材は、今活躍しているといっても今後どうなるか分からないということを考えると、価値が定まっていない危うさがある。オリジナル教材が多いということはいろいろなアプローチをしているのでよいのではないか。

委員 独自教材があるのはよいと感じる。「学びのテーマ」に1ページとり、横書き、フォントを変えているのは、生徒が意識を切り替えて学べるのではないか。

委員 学びと教材がすっきり分かれているので生徒が混乱しなくてよいのではないか。「学びのテーマ」にも、決め付けた感じがないのでよいと感じる。「学びの記録」は簡潔になっており、柔軟性をもって取り組めるので、タイムリーに活用できるのでよいと考える。

委員 「学びのテーマ」の中の、「つなげよう」という部分が、前の学びとの接続になるのでよいと

感じる。「学びの記録」は、一目で見られるのは活用しやすくよいと思う。字体については国語の教科書と同じなので、国語が苦手な生徒は同じように先入観を持ってしまう気がする。

委員長 次に日本文教出版について、ご意見を願います。

委員長 別冊ノートがついているが、いかがか。

委員 使うなら使いやすいと思う。

委員 これがないなら、ワークシートを作ることになる。

委員 これだと、ノートだけ担任が預かるということが出来る。他人に見られないというメリットがある。印象に残った点についての自己評価が気になる。必要なのか。

委員 体験的な学習の中で「学習の進め方」を設定しているのはよいのではないか。

委員 巻頭に「道徳科の学び方」が設けられ、「活かす」まで設定しているのは学びについての発展性が生まれて良いと思う。他者はだいたい「議論する」までではないか。

委員 教育出版も同様に活用するところまで設定している。

委員 いじめの教材が複数連続して配置されていることは非常によい特徴ではないか。「プラットホーム」というコラムも工夫されている。割とコンパクトに教材が作成されている。大体4ページ以内で収められているのではないか。

委員 3年生でもコンパクトである。主題を小さく、題名を大きく書いている。また、進める方向性も示している。さらに「プラスワン」で自分の問題におき変えている。

委員長 学校評価では〇が多い。

委員 授業で扱いやすいということではないか。

委員 「プラスワン」という部分で自分を高めたいということ意識できるような工夫がある。

委員 教材の並べ方に工夫がある。コラムや「プラットホーム」など連続で学びを深めていく配列の工夫があるのではないか。

委員 デジタルコンテンツとはどんなものがあるのか。

事務局 指導書のセットについている。教科書が映像として大きい画面に映し出されるものや、ワークシートや指導書などがDVDで提供される。別冊ノートがない会社は全者ワークシートが入っている。日本文教出版は指導書を買うとついてくるデジタル教材に動画や写真なども入っている。

委員長 次に学研教育みらいについて、ご意見を願います。

委員長 大きさが気になるが。

委員 美術はもう一回り大きい、もっと薄い。

委員 主題名が教材に記載されていないので、生徒から、こだわらずに自由な発言が出てくるのではないかと。しかし、教諭の技量によっては、授業で生徒の意見がさまざまに出てきてしまい、難しくなるかもしれない。A4判にすることによって、ページ数も少なくなり視覚的な配慮はあると感じる。

委員 主題名をあえて記載しないということについては、教材によって見せたり、あえて見せなかったり、ということを選択できるのではないかと。

委員 読み物が終わった後に統一性がないので、毎週授業を行う道徳科の授業としては扱いつらいところもあるように感じる。

委員長 ある程度の統一感があって続けていくほうがよいのか、そうでないほうがよいのか。

委員 デジタル教材がどういうものかが気になる。

委員長 ただ読むだけでなく、それを活用していくことも大切。1時間で完結させるのではなく、2時間だと考えると、ページがどこまで必要になってくるのか。また、別冊ノートなども関係してくるのではないかと。

委員 字が小さいのが気になる。生徒にとってみると、漫画が使われていたり、絵もイラスト風であったりと、飽きさせない工夫があるように思う。

委員 「クローズアップ」という部分で自分の考えを含めて生き方の選択肢を増やすという意味で良いのではないかと。現代的な問題として情報モラルについての教材も用意されており、きちんと考えなければいけない問題に向き合っていると感じる。

委員長 他にも資料にあるように、「防災教育」「法教育」を取り扱っているのはよいのではないかと。

委員長 これで6者の発行者について終了する。全体を通しての意見を伺う。

(特になし)

委員長 ありがとうございます。これで本日の協議は終了したいと思う。次回は残る2者と、本日の6者のいただいたご意見をもとに、次回は協議をまとめ、報告書を作成することになる。次回に向けて、事務局に本日の6者分の協議の取りまとめをお願いしたいが、いかがか。

(質問確認なし)

委員長 では事務局の方で本日の6者分の報告書原案を作成していただき、次回はそれをもとに協議を進めることとする。また、残る2者についても次回検討してまいる。

委員長 事務局から連絡をお願いします。

事務局 第3回鎌倉市教科用図書採択検討委員会は7月4日（水）14時から402会議室にて行う。